

FUKUCHI TOWN GUIDE 2016

[フォーチュン・ふくち]

fortune

FUKUCHI



THERE ARE
MUCH SMILING FACE &
HAPPINESS IN THIS TOWN.

2016

福智町 町勢要覧



高く、
高く。



継ぐ・生かす・挑む

特集 町制10周年記念巻頭対談

守ること、受け継ぐこと、伝えること、そして変わつてゆくこと
新しいまちのかたちが、今、見えてくる



どこまでも澄み渡る青空 それは、広くて高いこのまちの人々の志し
希望の空がいつまでも故郷に広がるように
そんな想いが積み重なるとき
わたしたちのフォーチュンストーリーが始まる

広く、
高く。



01 特集「巻頭対談」

継ぐ・生かす・挑む ■ 渡仁×大西 麻貴

嶋野 勝

——そこから見えてくる、新しいまちのかたち

i あふれるまち・福智
【第一章】ing

動き出す福智

町制施行10周年

- 07 福智から真心をこめて——福智町を躍動させるふるさと納税プロジェクト
09 創造から確立へ——官民一体となって取り組んだブランドディング活動
11 福智の魅力のコラボ革新——「スイーツ」と「器」と「音楽」の出会い、「ブクチ・ファインド・フェスティバル」
13 育まれる誇りを価値へ、プライドをブランドへ。——動き出した福智の「仕掛け人」に聞く
13 ふくち☆リッチジエラート「目指したのは、福智の自然を活かした豊かな味わいでした」

07 親子三代・個性がひかるそれぞれの上野焼——上野焼 庚申窯

15 人々の暮らしや想いを載せて「へいちく」は、今日も走る——若き鉄道員の一日

17 キャンバスの向こうに、希望の光を届けたい。——画家・さやのりこさん

19 福智町で見つけた豊かな暮らし、私らしい生き方。——福智に住む移住者家族の紹介

21 僕のホームタウン＆ソウルタウン——プロバスケットボール 石谷聰選手

14 i あふれるまち・福智
【第二章】ist

まちが育む想い、希望、そして夢 福智に生きる人々

i あふれるまち・福智

まちが育む想い、希望、そして夢

06 i あふれるまち・福智
【第一章】ing

まちが育む想い、希望、そして夢



29 i あふれるまち・福智
【第四章】identity

これまでの百年。そして、これから百年 存在感ある町へ

これまでの百年。そして、これから百年

24 i あふれるまち・福智
【第三章】ism

六感で知る風景

景色と郷愁

25 福智山を歩く

四季の原風景を行く

29 福智町の10年

感性を育む福智町

31 福智町の施設

新しい図書館・歴史資料館が生まれます

33 福智マップ

35 歳時記

36 福智町の湯処「日王の湯」「ふじ湯の里」

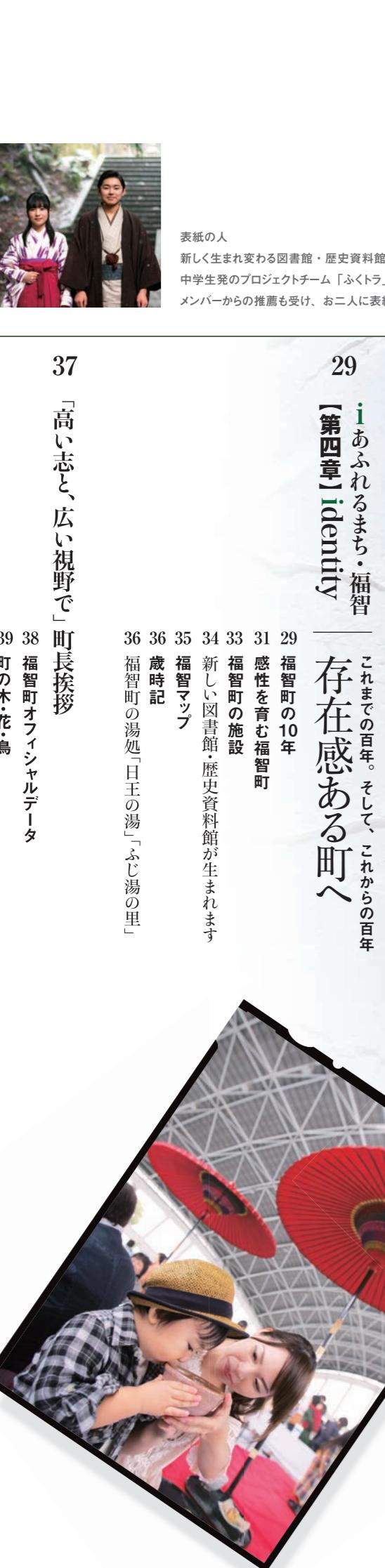
38 福智町オフィシャルデータ

37 「高い志と、広い視野で」町長挨拶

福智町の木・花・鳥

39 福智町オフィシャルデータ

町の木・花・鳥



継ぐ・生かす・挑む

そこから見えてくる、新しいまちのかたち

福智町の新しい図書館・歴史資料館の設計チーム、大西麻貴さんと、上野焼窯家渡窯十二代の渡仁さん。

気鋭の若手建築家と、伝統の世界に生きる陶芸家。内と外から福智町を見つめる2人が、守ること、受け継ぐこと、伝えること、そして変わってゆくことについて語ります。

巻頭対談 ■ 聞き手／福智町長・嶋野勝

interview

渡仁×大西麻貴

上野焼 渡窯十二代窯元

Artist・Watari Jin

建築家

Architect・Onishi Maki

まちづくりの拠点というテーマと向かい合う

嶋野／今日はどうぞよろしくお願ひします。

大西さんは、平成28年度に開館予定の「福智町立図書館・歴史資料館」の設計で福智町と関わることになったわけですが、実は渡さんと意外な縁があったとか？

大西／そうなんです。渡さんの窯に初めて伺ったとき、器に何だか見覚えがあるなど

思ったんですが、何と私が知人から結婚祝いにいたした器が、上野焼。それも渡さんの作られたものだったんです。

渡／僕もそれを聞いて驚きました(笑)。

嶋野／上野焼を通してお2人がつながつていった。うれしいことです。大西さんは、福智町に何度も滞在しながら設計を進めていらっしゃいますが、この間、面白いと感じたことや発見はありましたか？

大西／はい。私たちが今回福智町のコンペに参加したのも、「まちづくりの拠点になる図書館・歴史資料館」というコンセプトにひかりたからなのですが、町民の方々、特に中学生をはじめとする若い方が積極的にこのプロジェクトに関わってくださつていてることがまたすごいことだと思いました。

渡／大西さんが8月に1週間滞在されたときも、中学生が毎日現場に足を運んでいましたよね。彼らの姿を見て僕も感動しました。

嶋野／「ふくトラ」(※1)も彼らが自発的に

結成したものですしね。私も今後の彼らの活動には、密かに期待を持っています。

大西／彼らのおかげで施設を誰がどんな風に利用するかといったイメージが私の中でも具体的になりました。彼らがすごいのは、自分たち若者のことだけじゃなく町全体のことを考えているところ。年配の方に施設の利用についてインタビューしたり、バリアフリーについてもちろんと考えている。彼らに言わせると、「だつてそれは、結局は自分たちのためだから」と。視野の広さに驚かれます。

ともにつくる
プロセスを大切に

嶋野／大西さんは名古屋のご出身ですね。建築家を志したきっかけは何だったのでしょうか？

大西／先ほど「ふくトラ」の中学生のお話が出ましたが、私のきっかけも中学時代でした。家族旅行でスペインに行く機会があり、そこで、建設中の「サグラダ・ファミリア」(※2)を見たんです。建築家ガウディはすでに亡くなっているのに、その意志を引き継いで、時代を超えてなお多くの人が建設に携わっている。時代を超えてみんなで追いかけられる夢を描くことができる「建築」ってすごいなと。そこからですね。多感な年頃もあり、あのときの驚きは今でも忘れません。年月を経て、職業として建築に携わる立場になり、あらためて建築を通してどんなことが可能か今考えています。

interviewer 福智町長
嶋野勝
Mayor・Shimano Masaru



※1 「ふくトラ(FUKUCHI TRIANGLE)」赤池中・金田中・方城中の生徒会が自主的に結成した、図書館・歴史資料館を考える町民グループ。図書館・歴史資料館関連の他にも、町内の様々なイベントを通じて活動している。

※2 サグラダ・ファミリア
スペインの建築家、アントニ・ガウディの作品の一つとして知られる教会。1882年にバルセロナで建築が始まり、ガウディの死後130年以上が経った現在もその意志を継ぐ人々の手によって建設が続けられている。2005年にユネスコ世界遺産に登録された。

嶋野／日本の伝統的な家屋も独特のものだと思いますが、現代の建築家である大西さんから見て、どのように感じられますか？

大西／日本の建築は木造ということもあり、修理をしながら長く残していくものですが、寺で若い住み込みの方が丁寧にぞうきんがけをしており、毎日大工さんが来てどこか直しているといった光景が印象的でした。建物というのは、人や地域に愛されてこそ大切にされ、残っていくんだなと。今回の図書館・歴史資料館の設計をすすめるなかでも、福智のみなさんの視点を大切にし、ともにつくるプロセスを楽しむことで、多くの人が愛着を持ち手をかけたくなる場所づくりを目指したいと考えています。

■ 失われない品格が 上野焼の伝統

嶋野／渡さんは上野焼宗家という大変に伝統ある家にお生まれになつたわけですが、その重みなどを感じることはありますか？

渡／もちろんあります。昨年、父が亡くなつたこともあり、年々強く感じる様になつています。



3)が繰り返し言っていたのが、「品格のあるものを作れ」ということ。上野焼はもともと茶陶が起こりですから、その心を忘れてはならない。僕は窯に入つて20年以上経ちますが、父の代にはなかつた技術や道具を取り入れて、新しいデザインの作品もたくさん生み出しています。そんな中でも、「技術より品格」という父の言葉は常に胸にあります。かたちは変わつても脈々と受け継がれる心、大切なものは変わらない。これは上野焼だけではなく何百年も続く伝統的な技や芸に携わる者の肝にある信念のようなものだと思っています。

嶋野／渡さんをはじめ、窯元のみなさんが力を合わせて、伝統を守りながら上野焼の新しい文化を発信していただきことが、このまちの魅力をさらに多くの方に知つていただくことにつながると思います。

嶋野／渡さんは、図書館・歴史資料館がその発信の拠点になるといいますね。もちろん僕もお手伝いします。多くの方々に上野焼の良さを知つていただく機会にもなりますし。

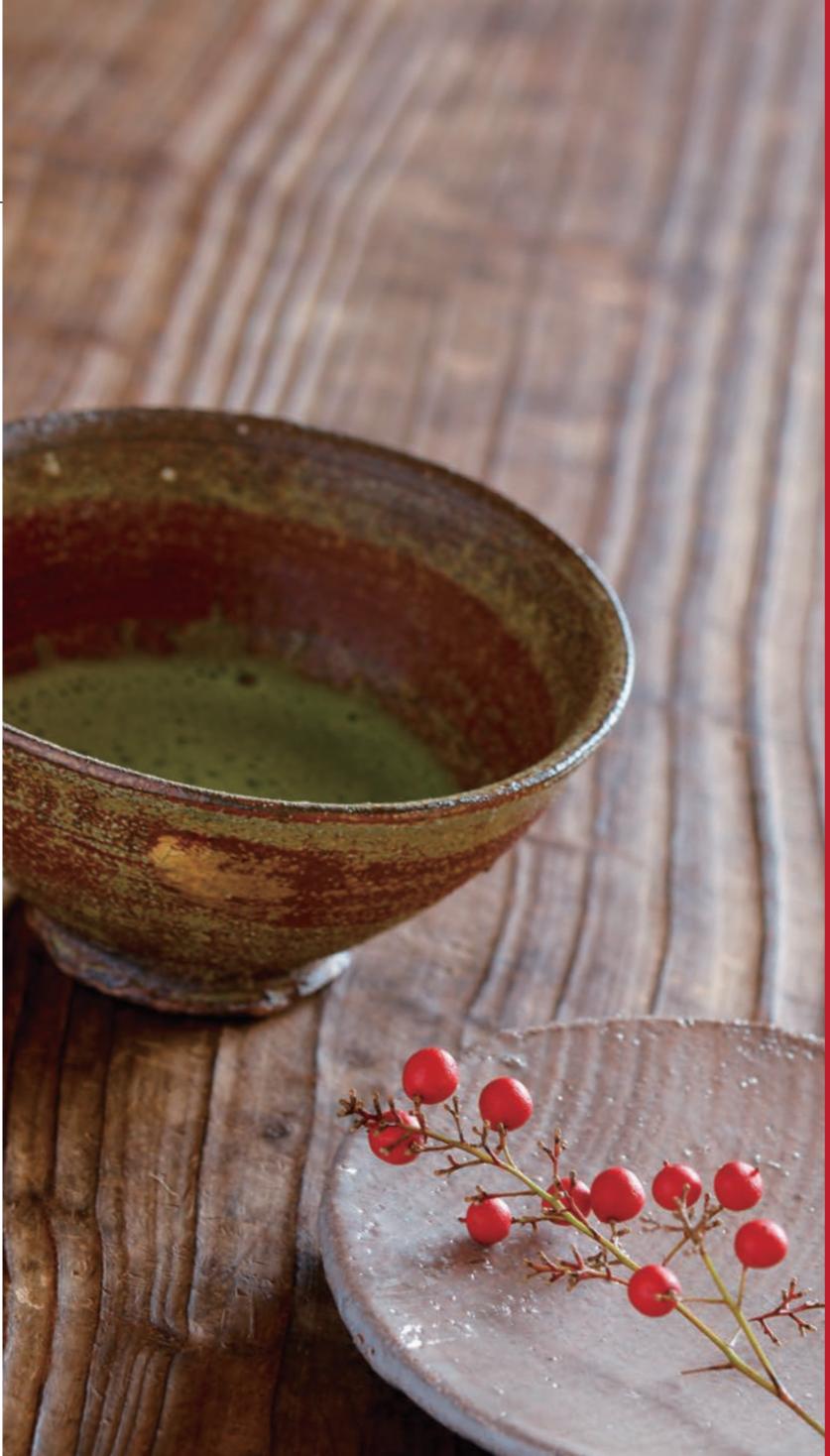
■ 何を伝えるか、 誰に伝えるかを考える

嶋野／大西さんは、図書館・歴史資料館の設計を通して初めて福智町に来られたわけですが、印象はいかがですか？



れをみんなでイメージしながら決めていく。そこに心があるからこそ、地域に愛される建築になるのではないでしょうか。みなさんとともに作りあげる新しい図書館・歴史資料館がどのようなかたちで完成するのか、私もとても楽しみです。

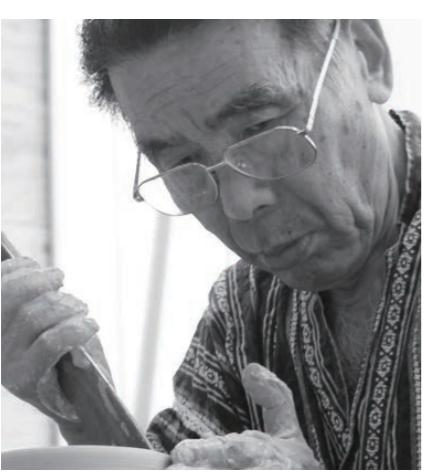
嶋野／先日、「ふくトラ」の中学生たちが「大人になつてみんなバラバラになつても、この図書館で会いたいね」と話していたんですよ。その光景を想像して、とても嬉しかったですね。



大西／こわだりや哲学のある農家さん、元気なお母さんたち、伝統を守りながらしつかりとご自分の作品を作つておられる上野焼の窯元の方々…、福智町は食も豊かと聞いていましたし、人もとても魅力的。設計を進めるなかで私たちも何度か滞在して、生産者さんや食のキーパーソンの方からお話を伺つたり、子育て世代の方々と意見交換をしたりしていますが、そんな町の魅力を掘り起して伝えていけるような施設を作りたいと思っています。何を伝えるか、誰に伝えるかを探すことからスタートする設計方法は、私たちにとっても新しいチャレンジです。

渡／それにしても、最初図書館・歴史資料館を作るという話を聞いたときは、まさかこんな施設になるとは思つていませんでした(笑)。從来の図書館のイメージと全く違います。

大西／建築つて、ただ建物をつくるということがなくて、やはり地域のみんなでつくるもの、一緒に立ち上げる喜びが根本にあると思うんです。誰のためにどんなものが必要か、そ



※3
上野焼宗家11代窯元 渡久兵衛
福岡県田川郡上野村(現・福智町)に生まれ、渡窯十一代を継承する。
昭和41年に日本工芸会第一回西部工芸展入選、以後出品を重ね、昭和49年には、日本伝統工芸展初入選、以後入選を重ねる。昭和52年に日本工芸会正会員に推され、大英博物館、福岡県立美術館等に作品収蔵、皇太子殿下に作品献上する。全国各地にて個展開催多数。
福智町誕生の際には福智町文化連盟の立ち上げに尽力し、初代会長として、また文化財専門委員としても、幅広く町内文化の振興に努めてきた。筑陶会を結成し、技術向上や後継者育成も行ってきた。2014年84歳で永眠。

i あふれるまち・福智 【第一章】ing

町制施行10周年 動き出す福智

受け継ぐ宝、目覚めるポテンシャル、そして情熱。
郷土への「愛」と、発信したい「魅力」が福智町を大きく動かす。



渡／大西さんのお話を伺つていると、僕の仕事をにも共通する部分が多くある気がします。例えばやきものは地域に息づくものですから、風土や、気候、人間性までもが作風に影響しやすい。そして、創作する際はさまざまに使われるシーンを想像することを大切にしています。自由な発想で僕の想像を超える斬新な使い方をされるお客さまもいて、それがまた創作への刺激になります。独りよがりでなく、使う人とキヤッチボールしながら創つてゆくこと。それが、地域や人に愛されるものづくりにつながるのではないかと思いまます。だから大西さんの姿勢にはとてもシンパシーを感じます。町制10周年を迎えたが、これからは「福智町」になつてから生まれた子どもたちが



**建築家 大西麻貴
(おおにし まさき)**
昭和58年愛知県生まれ。東京大学大学院卒。博士課程在籍中、百田有希氏と設計事務所「o+h」を設立。学生時代から数々の賞を受賞するなど、近年活躍が目覚ましい若手建築家。



**渡窯 十二代 渡仁
(わたり じん)**
昭和43年上野焼宗家に生まれる。東京造形大学彫刻科卒業後、アジアを周遊。平成6年、上野に戻り父・久兵衛氏に師事。日本陶芸展、日本伝統工芸展など入選多数。



**福智町長 嶋野勝
(しまの まさる)**
昭和32年生まれ。弁護士在住。法政大学経済学部卒、元学習塾塾長。平成8年から旧方城町教育委員会教育委員、委員長を歴任し、平成18年に福智町教育委員会教育委員となる。平成22年には福智町教育委員会教育長に就任し、町の教育行政を牽引した。平成26年より福智町長に就任。

どんどん育つしていく世代になります。彼らのためにも、福智町にいたい、ずっと住みたいと思える魅力あるまちづくりのために、やきもの可能性を活かして、少しでも貢献できるよう、お手伝いをしていこうと思います。嶋野／お一人とも、とても力強く愛あふれるお言葉をありがとうございました。町長という立場からも、私という個人の立場からもとても勇気づけられました。新しいものと、受け継がなくてはならないもの。両者が手を取り合つことで、より良いものが生まれ、輝きを増していく。それはまさに私たちが目指す新しい福智町のかたちと言えるでしょう。簡単ではありませんが、諦めず取り組んでいかなければなりません。まちづくりも建築や器づくりと同じ。いつまでも親しまれ愛される福智町をつくつていくために、私も先陣を切つて努力してまいりたいと思います。

第一章・動き出す福智 ①

真心をこめて

いま、福智町の「ふるさと納税」の取り組みが全国から注目を集めています。全国有数の観光地や先進地に比べ、知名度や圧倒的な資源に恵まれていない福智町。そんな小さな町が、魅力と力を結集し、創意工夫でチャレンジした成果が波及しています。



地元の名産品を全国に届けることは、生産者や町の人々にも活気を与える原動力になっている



こだわりと、まごころが味と香りに磨きをかける



柔軟な発想が商品力を高め、見過ごしていた可能性を発見した

福智力の全国展開 新たなチャレンジへ

こうして全国への発信が始まった福智町の「ふるさと納税」。その取り組みの様子は「資源を持たざる町の挑戦」として注目され、全国TV放送でも取り上げられました。

福智には上野焼やブランド果実だけではなく、磨けば光る原石のような資源がたくさんある。こだわっ

て無いから」という言葉が、いつしか口ぐせのようになっていました。そんな大きな壁と向き合ったとき、かつて幾度も困難を乗り越えてきた「福智の底力」が發揮されます。

「無いものは創る」。「創意工夫で最大の効果を生み出す」。

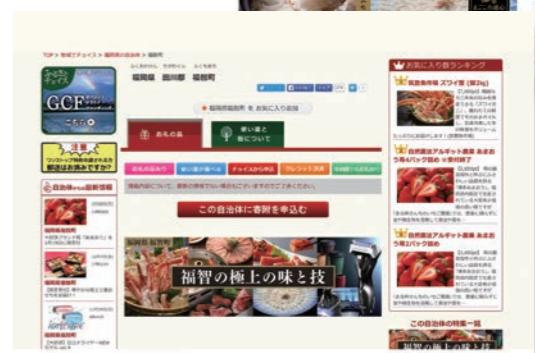
熱意とふるさとを想う気持ちが響き合い、多くの生産者が立ち上がり始めたのです。

「海がないなら魚市場の新鮮な海産物を届けなさい」。「ブランド牛がないならウチの秘伝のタレを使って」。「福智で開発された世界初の技術があるよ」…。集まった返礼品の数々は、福智から発信するふさわしい真心の結晶のようでした。



ひとつ一つ大切に育てた一品は、全国の人々の心を掴む

て地道に作ってきた1品が、全国に通用する逸品として評価される…。今まで身近すぎて気付かなかつた価値が、このまちにあることを確信した福智町の「ふるさと納税」。まちづくりのターニングポイントが、ふるさとへの誇りを生み、さらに次のステージへと力強い一步を踏み出しています。



下)ふるさとチョイス <http://www.furusato-tax.jp> 上)福智町ふるさと納税特設サイト <https://furusato-fukuchi.jp/>

第一章・動き出す福智 ②

確創立へ

まちの魅力を発信するのに欠かせないのは、やっぱりおいしいご当地メニュー。福智の風土とストーリー、つなぎを大切にした、かけがえのない逸品がスポットを浴びています。

ご当地グルメや絶品スイーツがまちの彩りに「おいしさ」という魅力を添えました。



炭鉱爆発事故の際に各家庭から持ち寄られた食材で作られたすいとんがルーツの福智名物

官民一体で創り上げた ご当地グルメ

平成23年、町内の飲食店店主や町職員を中心につとめ、さまざまな業種の人たちが集まって「特産品開発委員会」が発足し、ご当地グルメの開発が始まりました。郷土の食材を使ったユニークなメニューが多数提案される中、最も「福智らしく」また「ここにしかないもの」として選ばれたのが福智名物となる「方城すいとん」でした。

かつて炭鉱の町として栄えた旧方城町。炭鉱長屋では人々が支え合つて暮らしていました。そんな方城町を突然襲つたのが、大正3年12月15日に起つた「方城大非常」です。国内最大の炭鉱爆発事

故で、その犠牲者は670人以上。この事故で親を亡くした子どもたちにふるまわれたのが「すいとん」だったので。各家庭で具材を持ち寄つた温かいすいとんは、孤児たちの不安な心をどれだけ癒し生きる力を与えたことでしょう。

炭鉱の歴史や地域の絆を今に伝える方城すいとんは、まさに郷土が誇る味。特産品開発委員会では、伝統的な作り方をベースに素材やレシピを改良し、現代のご当地グルメとして大人から子どもまで親しめる味わいに仕上げています。



12月15日に全校に並ぶ
福智ブランド給食

福智の風土にこだわることから始まった 特産スイーツの商品開発

ご当地グルメとともに、旅の楽しみやお土産品として必須なのが甘いスイーツです。特産品開発委員会で試行錯誤の上開発された「ふくち★リッチジェラート」は、福智産のフルーツや素材を贅沢に使い、濃厚でリッチな味わいにこだわったジェラートです。福智で生産される「博多あまおう」「とよみつひめ」「卵」や「黒豆きなこ」などを使用した定番6種類の他、ふるさと納税でしか味わえない限定商品も用意しました。

販路の開拓にも積極的に取り組み、通信販売をはじめコンビニエンスストアなど、筑豊地域のさまざまな店舗で展開。生産やPR、販促活動のため、一般社団法人福智ブランドアクトリーが設立され、新たな雇用も生まれました。

開発から生産、流通、販売、商品管理まで多様な人々が携わり、大切に育てながらブランド力を高めてきたのが当地グルメやスイーツたち。まちに多くの人を呼び寄せる福智の「顔」に成長しています。



福智ブランドの先駆けとなったジェラート。全国に多くのファンを持つまでになった



福智の魅力の コラボ革新

町の人口を上回る福智のマーンイベント
出会いと感動の空間が、福智町を進化させる



特産の「スイーツ」上野焼の「器」、作曲家 河村光陽が誇る「音楽」。魅力のトライアングルで実現するスイードーム



毎年、まちの人口を超えるほど
の賑わいあふれる日がありま
す。平成23年度から始まった「フ
クチ・ファインド・フェスティバル」。3回
目からは茶陶である上野焼とお
茶に合うスイーツをコンセプトにし
た「大茶会」を開催。5回目となっ
た昨年は九州各地の有名スイーツ
店52店舗が参加し、上野焼とスイ
ーツのセットも好評を博しました。
回を追うごとに話題になり、
いまや九州最大級の規模のスイ
ーツイベントとなった「大茶会」。
温故知新、和と洋・多様な魅
力が融合し、相乗効果を生み出
す「福智の祭典」として、これか
らもますます一期一会の空間が進
化していきます。

フクチ・ファインド・フェスティバル

▼「スイーツ」と「器」と「音楽」の出会い（会場／金田ドーム）



FUKUCHI FORTUNE SMILE
食べる人の笑顔が見たいから
幸せを届ける、まちのパティシエたち

「おいしい」の声が聞きたくて。食べる人の笑顔が見たくて
お菓子作りは、つくる人も食べる人も幸せにする素敵な仕事
スイーツ大茶会は、そんなパティシエたちが
それぞれの技と味を披露する共演の場
つくる人の数だけ、ときめきと幸せがある
だから、楽しい。だから、心が躍る



アレルギー対応のケーキやパンを販売している「ちびちび」さ
ん。福智町に店舗を構える洋菓子店です。ここを経営して
いるのは、主婦であり子育て中の母でもある赤江さん。お子
様がアレルギーをもっていたことから、食の大切さをあらため
て学んだといいます。「スイーツ大茶会では2日間で3万人を
超えるお客様が来場されますが、中には卵アレルギーを持ったお子様連れの方もいらっしゃいます。その
ような方たちを含めすべての方に喜んでいただければ何よりと思います」。

現在ではイベントを通じて知り合った新たなお客様が「ちびちび」を訪れてくれるようになり、今までこだわ
ってきたコンセプトがお客様のよろこびになって返ってくることが何よりもうれしいと語る赤江さんです。



「萬平浪漫」犬丸 龍介さん



福智町出身で萬平浪漫を経営する犬丸さん、これだけのイベ
ントが地元で開催される喜びをひしひしと感じると語ります。
「仲の良いお菓子屋さんから、参加させてほしいというお声をよ
くいただきます。自分が主催しているわけじゃないんですけど、
周囲からは、生まれ育った町でこんなイベントを開催してもらって
うらやましいねと言われます」。

回数を重ねるごとにお客様の目もこえてきているので、今年は
何を出そうかと試行錯誤を繰り返しているとのこと。お客様に
喜んでいただくことはもちろんですが、参加する福岡の一流パ
ティシエたちにも認められている大茶会です。

進化と深化。加速する福智の地域ブランド化

▼つながりの力が積み重なってカタチになる。福智スタイルの展開

数々の企業や団体、地元の大
学とも連携し、多くの人の手で
実現する「福智スイーツ大茶
会」。そんな町のメーンイベントを
はじめ、幅広く展開されている
「地域ブランド化」の取り組みは、
つながりの力が積み重なって広が
りを見せてています。

ダントを招いた「思いやりの教室」の
開催、さらにトヨタ自動車九州と
も連携した「のりものフェスタ in ふ

日本航空との連携では、平成
筑豊鉄道の車内でパイロットが航
空教室を行う「JAL列車」の運
行、東京ディズニーリゾートの
キャストやJALのキャビンアテン

旅行読売で紹介された
福智町の観光

くち」が実現。また、羽田空港発
着の福智スイーツ大茶会観光ツ
アーキャンなどのテーマパークと鉄道
運転体験がコラボ
したツアーや児童
の空港見学、福
智町イメージソ
ングの作成、ラジオ
番組の共催など、
幅広い成果をも
たらしています。

企業連携では、TOTOの「どん
ぐりの森づくり」発祥地としての環
境保全活動やトヨタ自動車九州の
「スプリングフェスタ」などのPR出
展、日立マクセルの地域貢献活動な
どが展開され、田川地域の広域連
携による活動も活発です。

観光面でも農家民宿の開業や体
験ツアーコースの整備、観光ガイドの
育成や地元グルメ店舗との連携事
業など、福智の魅力を発信する地
域ブランド化に向けた取り組みは、
とどまるこなく加速しています。

育まれる誇りを価値へ、プライドをブランドへ。

地域資源や多くの人のつながりで実現してきたという福智のまちづくり。特産品開発やシンボルイベント、企業連携や観光振興、ふるさと納税など、地域ブランド化に幅広い成果をもたらしています。

「磨けば光る資源がこの町にあったからこそ、その結びつきで相乗効果が發揮されました。多くの団体や関係者のみなさんをはじめ、チームの力で福智が動き出したのだと思います。貴重な出会いに恵まれましたし、そこに信頼関係が築けたことが何よりの財産です」。

福智の取り組みは、企画段階から特徴があるという役場まちづくり総合政策課の長野士郎さん。いくつかの視点を大切にしていると言います。

「横につないだり、高めたり、進化させたり……そんな縦軸や横軸と、全国規模の視点や客観的な視点、また歴史を捉えつつ先を見据える視点を大切にしています。どうしても成果に注目が集まりますが、むしろ取り組みの過程にこそ意義があるて、準備段階で成功するかしないかは肌で感じますね」。

今まで町にないものを創り出す姿勢は、過去の経験が大きかったという長野さん。「次代の人が胸を張つてふるさとを誇れる町へ」と、まちづくりに取り組んでいます。

「かつては広報担当で、いろんな角度から町を見つめました。財政再建の経験

も大きな糧になっています。できないからやらないのではなく、「やるかやらなければいけない」の熱意次第だと。費用対効果の感覚も含めて、先輩方の後ろ姿から学びました。今回、やれぱできるという自信を多くの方々と共有できたと思いますし、いま持ちはじめた「プライド(誇り)がブランド(価値)へつながるように、小さな町だからこそできる取り組みを大切にしていきたいです」。



目指したのは福智町の自然を活かした豊かな味でした

福智の魅力が凝縮された芳醇な味わい。福智の豊かな自然と、素材ひとつ一つに込められた生産者のこだわりが美味しいとなって口一杯に広がります。福智ブランドファクトリーが、自信と愛情を込めて発信します。



<http://www.fukuchibrandfactory.com/gelato>

一般社団法人福智ブランドファクトリー
〒822-1202 福岡県田川郡福智町神崎1056-30 TEL.0947-22-4303/FAX.0947-22-4304

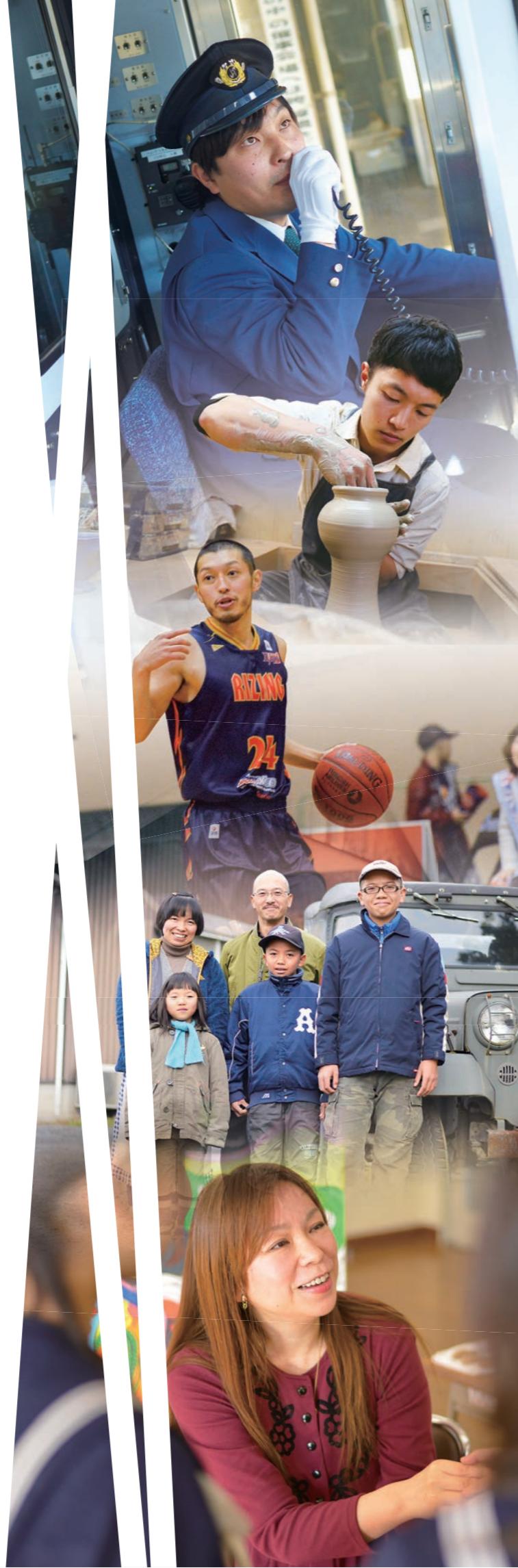


i あふれるまち・福智

福智に生きる人々

まちが育む想い、希望、そして夢

想いや希望をして夢を育む風土。その中で絶え間なく輝き続ける人々。
福智町の主人公は今を生き抜く一人ひとり。





陶器 祭り

伝統と革新に触れる 陶器祭りと窯開き

伝統ある春の「上野焼陶器祭り」と
趣深い秋の「窯開き」。上野の里
ふれあい交流館を中心に、春と秋
年2回、様々なイベントを交え盛大
に行われています。上野焼らしい
高級感あふれる上品な一品や、新
しい世代が積極的に挑戦するカ
ジュアルな一品まで、上野焼の魅力
満載の人気イベントです。

■ 福智町 窯元一覧		
無造窯	福智町上野1738	☎ 0947-28-4780
青柳不老園	福智町上野2812-1	☎ 0947-28-2139
十時窯	福智町上野1740	☎ 0947-28-5557
元彦窯	福智町上野1729	☎ 0947-28-3200
梶原窯	福智町上野3117-1	☎ 0947-28-3336
梶原本窯	福智町上野3102-1	☎ 0947-28-4166
熊谷本窯	福智町上野3094	☎ 0947-28-2056
高鶴本窯	福智町上野1884	☎ 0947-28-2021
庚申窯	福智町上野1937	☎ 0947-28-2947
渡窯	福智町上野3065	☎ 0947-28-2175
八幡窯	福智町上野1948	☎ 0947-28-2275
柴の門窯	福智町上野1717-1	☎ 0947-28-3571
高田窯	福智町上野3127-19	☎ 0947-28-2147
光修窯	福智町上野2928	☎ 0947-28-5559
守窯	福智町上野1991	☎ 0947-28-2757
清山窯	福智町上野1458	☎ 0947-28-4505
堀田窯	福智町上野1274-1	☎ 0947-28-2791
天郷窯	福智町上野2811-3	☎ 0947-28-5058
城之窯	福智町上野2084-1	☎ 0947-28-5397
耕窯	福智町上野933-1	☎ 0947-28-4338
中村窯	福智町上野3908-2	☎ 0947-28-3888
昇龍窯	福智町上野4038-2	☎ 0947-28-4790
翠泉窯	福智町赤池680-2	☎ 090-5941-5615
圭人窯	福智町金田1562	☎ 0947-22-1046
豊前吉右衛門窯	福智町弁城856-2	☎ 0947-22-5455
我窯	福智町伊方2115-1	☎ 0947-22-0567
福泉坊の風景	福智町上野1823	☎ 0947-28-3672

「伝統は大切ですが、自分のやり方に固執しては新しいものは生まれません。私が言いたいのは、自分が作りたいもんを作れ、それだけです」。

10



上野焼協同組合理事長 二代目 高鶴 享一さん

息子で2代目の享一さんが窯に入った昭和58年も、ブーム冷めやらぬ時代。「建築家に憧れていますが、会社勤めをするよりは、と窯に入りました(笑)。陶芸は専門学校で本格的に学びましたが、技術が上がったのはやはり窯に入つてから。当時、家には

庚申窯の初代・高鶴智山さんが窯を開いたのは昭和46年のこと。高鶴本窯を営む父・城山氏の末子として生まれ、花作りを生業としていましてが、健康上の理由から39歳で陶芸家へと転身しました。「当時、日本は陶芸ブームの真っ只中。作れば何でも売れよった。ここ上野にも観光バスが何台も来てね」と智山さんが振り返ります。

古きを知り新しきを求む
大切にするが、固執しない、だから続いていく

上野焼協同組合理事長を務める「上野焼庚申窯」の二代目・高鶴享さんと、先代 高鶴智山さん、長男・高鶴裕太さんは、三代揃って現役で作陶に励む陶芸一家。子弟である3人、それぞれの経緯で今に至り、それぞれの感性で、それぞれの上野焼を生み出しています。



横浜國立大學を卒業後、帽郷アーチ陶芸を磨く長里・真鶴松士さん

が、若き裕太さんの作陶に向かう姿勢はあくまでのびのびとしたやか。「量産の器があふれる現代だからこそ、手と土の温もり、上野焼の魅力を伝えていきたい」と語ります。知名度の向上は、上野焼協同組合理事長を務める享一さんの目標でもあります。「私たちは、これからは待ちの姿勢では通用しません。上野焼をもつと知つてもらい、使ってもらうために外へ出て、新しいことに挑戦していくなければ。上野焼は先達が興し、守ってきた素晴らしい地域の文化なのですから」。



庚申窯 初代 高鶴 智山さん

るのでしよう。「大学で絵を描いていたんですけど、描く楽しさと評価される喜びを知つて。家で父や祖父が作陶している姿をずっと見てきましたし、僕も陶芸で自分なりの表現をしてみたいと思つたんです」。

さんの絵皿は、若者らしい遊び心にあふれています。「親父の代から同じ釉薬を使っていまして、薄さの感覚や高台の作り方など、作風としては似ている部分はあると思いますね」と享さん。でも、「上野焼は、庚申窯はこうであります」と、うことは親父も私も



まちが育む想い、希望、そして夢
福智に生きる

人乞

まちが育む想い、希望、そして夢、福智に生きる



人々

平成筑豊鉄道

若き鉄道員の1日

人々の暮らしや想いを乗せて「へいちく」は、今日も走る。

平成元年10月、廃線予定だった旧国鉄の口一カル線を引き継ぎ、開業した「平成筑豊鉄道」。その開業と同じ年に生まれた27歳・若手社員の一候の「1日」を追いました。



どんな経験でも役に立たないことはない。人とのふれ合いを通じて知る事も多い。

馴染み深い鉄道だからこそ
なおさら募る責任感

「発車いたします。ドアが閉まります。ご注意ください。よく通る低い声のアナウンスが車内に響くと、列車はゆっくりと走り出します。乗務員を務めるのは入社3年目になる一候さん。27歳(ふたまたよしちか)さん。保育福祉の専門学校を卒業し、保育士として勤めた後、平成25年に平成筑豊鉄道(以下、へいちく)へ入社しました。「将来を見据えて転職を考えていた時に、へいちくを利用していた父が乗務員募集の案内を見つけたのが応募のきっかけでした。子ども時代、田川に暮らしていた頃にへいちくに乗った思い出もあって親しみがありましたから、採用が決まった時はとてもうれしかったですね。」



「自分が守らなければ」その気持ちは次第に強く。

乗る人、降りる人 お客様の笑顔を乗せて走る

これから学校や職場へ行く人、町を訪れる駅に降り立った人、新たな旅立ちをする人。
お客様の笑顔が見たいから、今日もへいちくはひた走る。



FUKUCHI FORTUNE SMILE

TIME TABLE ▾	11:55 出勤	
	12:14 点呼	
	12:34 乗務	
	点呼 休憩 15:58 乗務	
	16:33 点呼 点検作業	
	17:34 乗務	
	21:22 点検作業	
	点呼 業務終了 21:47	

日々の作業の緊張と充実が、鐵道マンとして、そして「人間」として成長させてくれる

1年の研修を経て、初めて金田駅のホームに立った時のことを、一候さんは「こわかった」と振り返ります。「事故のないように安全に、責任感を持って務め上げなければならない」と、気が引き締まる思いでした。

仕事に慣れた今も30分前には出社します。休日は好きな釣りでリフレッシュし、乗務員といふ業務を通して、乗客との日常的な触れ合いも生まれます。乗車していく人の挨拶や、ぐずる子どもがいれば、保育士経験を生かして上手に対応したりと、利用者に対する感謝を自分なりに伝えている一候さん。

「僕、昔は人と話すのが苦手だったんですよ。でも、子どもが好きで保育士になつて、その後、乗務員として接客を行うに心がけているといいます。

保育士からの転職 その経験値も活きてる毎日

乗務員という業務を通して、乗客と日常的な触れ合いも生まれます。乗車していく人の挨拶や、ぐずる子どもがいれば、保育士経験を生かして上手に対応したりと、利用者に対する感謝を自分なりに伝えている一候さん。

仕事に慣れた今も30分前には出社します。休日は好きな釣りでリフレッシュし、乗務員といふ業務を通して、乗客との日常的な触れ合いも生まれます。乗車していく人の挨拶や、ぐずる子どもがいれば、保育士経験を生かして上手に対応したりと、利用者に対する感謝を自分なりに伝えている一候さん。

う中で、「物怖いぜ」と人に前で話せるようになります」と、はにかみながら話してくれました。

学生や車を持たないシニア層などにとって、なくてはならない存在の地域鉄道「へいちく」。少子化などによる乗客減少の課題を抱えながらも、本格化する高齢化社会を前に、沿線利用者の足を担う大切な役割をまつとうしたい――。社員誰もがそんな思いを胸に日々働き、そのひたむきな心が地域を支えています。

私が育む想い、希望、そして夢 福智に生きる



人々 画家・さやのりこさん

「脊髄係留症候群」という難病と闘いながら、絵をとおして多くの人に癒しと希望を与えている福智町在住の画家・さやのりこさん。美しく躍動感あふれる作品の根底には、福智町の自然の美への感謝と、これまで出会った人、そしてこれから出会う人を慈しむ温かい愛が旋律のように流れています。



キャンバスに向こうに、希望の光を届けたい。

ゆっくりとその手に筆をとり、静かにキャンバスに向き合います。鮮やかな色がのせられると、下絵の花や蝶たちが、まるで躍動するかのように生き生きと浮かび上がってきました。

20代のときからエステティシャンとして女性の肌と心を癒していたさやのりこさん。しかし突然36歳で「脊髄係留症候群」という難病を発症、手足が自由に動かない生活が始まりました。「もう人を癒せない。それが何より辛かった」。

絵筆をとったきっかけは、知人の「生きた証を残して」という言葉。「昔から絵は好きでしたら、もう上手に描けないと思っていました。病気になって最初に絵を描いたときは、仕上がりに納得できず『私の絵じやない』と泣いてしまったほど」と当時を振り返ります。

それでも、「絵を待っている人がいる」という思いが沸き起こり、つき動かされるように描き続けたさやさん。インターネット上の交流サイトに発表した作品が大きな反響を呼び、国内外で瞬く間に広がりました。現在は全国各地で個展を開催するほか、作品はペルーの美術館にも所蔵されています。



握力の弱い人でも握れるユニバーサルデザインの絵筆を使用し、想いを描くさやのりこさん。「描く前は何もイメージしていないんですが、キャンバスに向かうとモチーフや色が浮かんてくるんです」

絵を描くときは、クラシックやヒーリングミュージックなど好きな音楽をかけること。穏やかで神聖な空気がさやさんを包みます。



南国の花嫁(TropicalBride)

URL <http://sayanoriko-art.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/sayanoriko>

<プロフィール>

●さやのりこ

福智町在住。2006年に脊髄の異常で神経に障害が起こる難病「脊髄係留症候群」を発症。手足の麻痺と闘いながら画家として活動を続ける。

第7回視覚芸術ユーロアメリカン展2012(場所:ペルー共和国クスコ市立美術館及び国立大学サンアントニオアバドのインカ美術館)特別招待作家として受賞。

国際博覧会「第7回視覚芸術ユーロアメリカン展2012」に出展した「南国の花嫁(TropicalBride)」をペルー共和国クスコ市立現代美術館に寄贈。作品は永久保存となる。他、国内外で活躍の場を広げている。

どんな状態であっても、必ず希望の光はあると語るさやさん。絵を待つ人のために、見知らぬ誰かのために、愛と光を宿したその手で、さやさんは今日も絵筆を握ります。

人々 豊かな暮らし、私らしい生き方。



自分らしい生き方、暮らし方を実践する人が増える昨今、ここ福智町でも都会からの移住者やリターンなどの定住を歓迎しています。三家族のみなさんに、きっかけや住んでみて良かったことなど、移住者ならではの視点で福智町の魅力を語っていただきました。



子どもたちのために、
支えてくれた町の人のために、
福智をもっと楽しいまちにするお手伝いを。

愛知県の自動車部品の関連会社で、バドミントンの実業団チームに所属していた福垣寿一さんと和子さん。平成19年に結婚した後も、ともにアスリートとして活躍を続けてきました。転機は平成21年。福智町に住んでいた福垣さんのお父さんが倒れ、家業を継ぐためリタイアすることになったのです。突然の移住話に戸惑ったのは、当時妊娠中だった和子さん。「え、と思っていました。結婚前に福智町の夫の実家に行つたことがあつたんですけど、何もないとさうだな」という印象だったので笑)。知り合いもないし、悩みました。アスリートとして自分で引き際を感じていたこともあります。



り、区切りをつける
いいきっかけかなと」。
長女の出産を経て、平成22年の夏から家族3人での福智町の暮らしが始まります。移住した当

初の印象は、「やっぱり何もないな、と(笑)」。けれど、暮らすうちに分かつてきただの、「ふれあい」があるということ。

「初対面でもみんな笑顔で声をかけてくれますし、子どもたちもよくおやつをいたいでいます。人の温かさに触れて、今は住んで良かったなと思います」。

移住後に長男が誕生し、現在、和子さんは3人目のお子さんを妊娠中。移住当初は孤独感や情報不足に悩んだこともあつたと言います。でも、「最近思うのは、何もないなら自分が作ればいいということ」と和子さん。「子育てサークル」「こもれび」を自ら立ち上げ、ママたちの交流が活性化するよう奮闘中。寿一さんは商工会青年部の副部長としてまちづくりに積極的に参加し、バルーンフェスタでは実行委員長も務めています。「福智町は人が温かく、自然も食材も豊か。無農薬のおいしい野菜が身近で手に入れるのも魅力です。あとは町外から来た人がもっと楽しめるような場所があればいいよね」「そう、カフェや雑貨屋さん、スイーツショップなど、女子目線がもう少しあればいいんじゃないかな。大きなイベントも魅力的だけど、歩いて楽しめる福智町のまちづくりも必要だと思います」。

移住して5年。いまやすっかり町民として、まちの未来を考える福垣さん夫妻。たくさん点在している福智町の魅力をつないで発信していく。それが、移住してきた私たちにできることであり、受け入れてくれた町の人々への恩返しかなと思っています」。



家のすぐ裏はプライベートキャンプ場。
豊かな自然の教材に囲まれて、日々を営む幸せ。



岩井原賢さんの趣味はオフロード車での山間ドライブ。あるとき、たまたま通りがかった福智町・上野の道すがら、小さな「売地」の看板を目にしていました。結婚前に福智町の夫の実家を行つたことがあつたんですけど、何もないとさうだな」という印象だったので笑)。知り合いもないし、悩みました。アスリートとして自分で引き際を感じていたこともあります。

「ちょうど敷地を探していましたし、田舎暮らしをしたいという思いもあって。何よりそのとき見た福智山がすくすくきれいで、ここに住みたいと思ったんです。カミさん相談したら思いのほか乗り気で、「行こう、行こう」。トントン拍子に話が進み、購入した土地にやがて家が完成。「福智町は土地が安く、直方の家と土地を売ったお金でここに家が建てられたことも良かったですね」。

果樹園に囲まれた軒家で上野の住人となつて11年。当初、夫妻の唯一の心配事だった「町の人

に受け入れられないので?」といつ心配もまったく杞憂だったと言います。「近隣の方々がすごく気さくに話しかけてくれて。おかげで移住してすぐ地域に溶け込みました。子どもたちがお年寄りと接する機会が多いのもいいことです。子ども会やPTA活動を通してたくさんの人と親交が深まりました」。

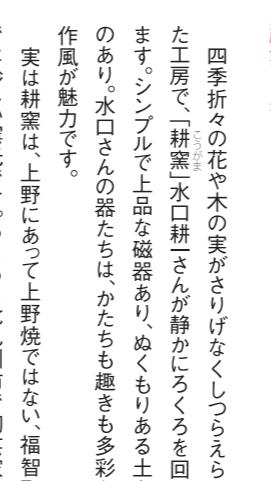
そんな岩井原さん一家の楽しみは、家族みんなでのキャンプ。「いつもキャンプ場などに行く必要はありません。「実は家の裏の空き地を使わせてもらっているんです。プライベートキャンプ場ですね(笑)。焚火や虫取りもできる。家のまわりすべてが、子どもたちにとって絶好の遊び場です。広々とした土地と静かな環境は、遊びに来る友人や兄弟にも羨ましがられます」と賢さん。由利加さんも、「旅行などから福智町に帰ってくるとほっとしますね。あ~やっぱここがいいなって」さらに、福智町の食の豊かさも住んでみて実感したことのひとつ。旬の野菜や果物はもちろん、猪肉のすそ分けが舞い込むこともしばしばです。

山の美しさに惹かれ移り住んだ福智町。静寂をさ

えぎるのは何もなく、遠くを走る電車の音でもが岩井原家までやさしく届きます。「都会では考えられない静けさですね。夕方になると、山に住むシカのピィピィという鳴き声も聴こえます。ウサギもいる、インシシもいる。イタチ、アナグマも見ます。そういうところです、ここは」。四季折々に姿をかえる福智の山々に抱かれ、岩井原家の日々の暮らしは穏やかに紡がれていきます。



新たな故郷への感謝を手のひらに込めて。
陶郷上野で生み出される、趣深い器。



四季折々の花や木の美がさりげなくしづらえられた工房で、「耕窯」水口耕さんが静かにろくろを回します。シンプルで上品な磁器あり、ぬくもりある土ものあり。水口さんの器たちは、かたちも趣きも多彩な作風が魅力です。

実は耕窯は、上野にあって上野焼ではない、福智町では珍しい窯元です。もともと北九州市で陶芸家として活動していた耕さん。8年前、上野焼の作家が閑東に引っ越し、自宅兼工房を若い作家に譲りたいという話が舞い込み、縁あつて譲り受けたのが耕さんでした。当時交際していた沙織さんも一緒に移住。福音

だらうか?」ということ。「土が違うので上野焼とは名乗れませんし、自分たちのやきものは茶陶ではなく、ふだん使いの器でしたから」と耕さんが振り返ります。「どうがです。近所の人が本当に優しく迎えてくださつた。冬に引っ越ししてきたんですが、まず『寒いです』と言ってくださいました。そのたびに心が温かくなりますが、やけに心配もまったく杞憂だったと言います。それだけの心配もまったく杞憂だったと言います。」

耕さんが陶工にはげむ傍ら、沙織さんは家庭菜園にいそしみます。「福智町に来て野菜作りを始めたんです。よく育つので、毎日沢山食べます。いいたけも原木栽培で大量に採れますし、今は台風でダメになつてしまつたんですねが、それでも春は家のなかからお花見ができるのもこれ以上ない贅沢ですね」もともと田舎暮らしに憧れていた耕さん。沙織さんの反対を押し切り、とうとうお風呂まで薪風呂に改造してしまつたほど。「町の方たちが木材をわざわざ薪にして分けて下さるんですよ。本当に親切で…」生き生きと語る耕さんの横で、思わず微笑む沙織さん。「正直不便はあるけど不満はないですよ。本当に親切で…」生き生きとした沙織さん。薪風呂は温泉もあるし景色もいい。住むには本当にすすめです」。

22 Fortune

僕のホームタウン&ソウルタウン。

プロバスケットボール・石谷 聰選手

福岡をホームタウンとするTKbjリーグ「ライジング福岡」で活躍する福智町出身石谷聰選手。

田川市で行われるフランチャイズマッチを前に、プロ選手としての近況と故郷・福智町について想いを語っていただきました。

父が僕にとっての初代監督
僕のバスケのソウルはそこにある

精悍な顔立ちと抜群の身体能力で人気のある石谷選手。バスケットを始めたのは、現在も方城中学校で監督を務める父親の影響でした。「小さい頃はスポーツ全般が好きで、いつも校庭で走り回ってましたね。父さんが僕にとってのバスケットのソウルと言つても過言ではあります(笑)」。10歳前後で始めたバスケット歴は20年余。多忙な日々を送る中で、たまに父の住むソウルタウンである福智に帰省してはリフレッシュしているそう。

「自然が豊かだし、煮詰まった時なんかに故郷に帰るとやっぱり落ち着きます」。

一方ホームタウンである「ライジング福岡」では、ポイントガードという司令塔的な役割を担う石谷選手。シーズン中は体調とメンタルの両方を保つためにルーティンをこなし、試合に臨む気持ちを高めていくといいます。

子どもたちに夢を与えてナンボのプロスポーツ選手

シーズンオフには、チームが掲げる地域貢献活動を通じて、さまざまな人の触れ合い

を大切にしています。「オフの間は、いたんボールから離れて旅行に行ったり、おいしいものをして気持ちを切り替えますが、福岡県内の小学生を対象にバスケットを教えに行ったり、人権学習の一環でスポーツの楽しさについて話をしたりしています」。明るく元気な子どもたちに会うと、自分もフレッシュな気持ちでバスケの素晴らしさを再確認できるのだとか。

「中には、チームに入りたいて言ってくれたり、プロスポーツに興味を示す子もあります。目標を持つてがんばってくれれば嬉しいですが、夢がなかつたとしても焦らずじっくり見つけてほしい」と温かな眼差しで話します。それはきっと「好きなことを続ける」という簡単なようで難しい信念を守り抜いてきた石谷選手だから言える言葉です。

「福智町は活気がある町ですし、今年も金田の祭りに行きましたよ。僕の中でバスケを始めたこの地は、自分が立ち戻れる場所。今までチャレンジする姿を見せて、子どもたちに勇気や希望を与えられたらと思いますので、応援をお願いします」。



ライジング福岡

「Rizing」とは太陽が上昇する様(rising)と日本の雷電を司る(雷神)のともに勢いやエネルギーを表す複合語。「Rizing」という存在が、皆様を勇気づける「心の栄養」になって欲しいと願いを込めて命名されました。地域との交流を通して、子供たちに夢を与え、地域の皆様に愛され続けるチームとして、コミュニティーの創造、スポーツの発展に貢献することをポリシーとしています。



iあふれるまち・福智

景色と郷愁

六感で知る風景

いつか見たことのある景色、そしてどこか聞き覚えのある物語。

福智町の郷愁とノスタルジア溢れる原風景。



福智山 を歩く

町のシンボルとして、今も昔も人々から愛され続ける靈峰「福智山」。かつては山岳信仰の修験地であり、最澄や空海も山頂で祈願したと伝えられています。父なる山「福智山」と母なる川「彦山川」の恩恵は、多くの実りと多彩な文化を育み、豊かな自然を今日まで伝え残してきました。まだこの地は、豊前と筑前の国境に位置し、人々と英知が行き交うクロスロードとして、地域が誇る資源が息づいています。

陶郷上野を訪れる

四百年の歴史とともに 趣を変えて進化する上野焼

心地よい重さと質感、口あたりの良さと手作りのぬくもり…。目立ちすぎず、かつ存在感のある上野焼は、4百年に渡る時代とともにその趣を変え、今に至っています。

細川忠興が創始した御用窯
遠州七窯を誇る国焼茶陶



侘び茶を大成した千利休の高弟で「利休七哲」の一人として古田織部と並び賞された茶人・大名・細川忠興。その忠興(三斎)が関ヶ原の戦い後、豊前小倉藩主となつた際(1602年)、李朝陶工の尊楷を上野の地に招いて開窯したのが、国焼茶陶「上野焼」です。その後、幕末まで小倉藩主の御用窯、藩主として歴史を刻み、江戸時代には、徳川將軍家茶道指南役の小堀遠州が賞賛した「遠州七窯」の一つとして名を馳せるなど、多くの茶人を魅了してきました。

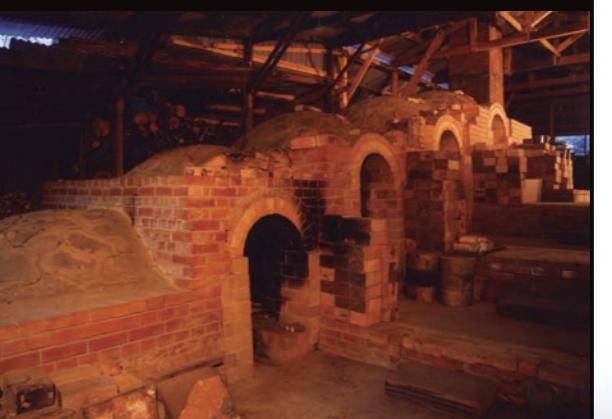


開窯初期は、武家の精神を表すような野趣あふれる作風が特徴で、江戸中期には遠州好みの洗練された「綺麗さび」が器に反映されています。江戸後期以降は、薄づくりや緑青の色彩が作品を特徴付けました。

今日では、伝統に基づく茶器をはじめ、現代感覚が融合した魅力ある作品が、各窯ごとに生み出されています。4百年以上の歴史を誇る国指定伝統的工芸品「上野焼」は、その伝統を脈々と受け継ぎ、新たな歴史を刻みながら作陶の白煙を上げ続けています。

食と器と音楽の要素が融合 上野の魅力体感スポット

上野の里を代表する施設「上野の里ふれあい交流会館」。上野焼協同組合加盟の各窯元の作品を手にとって選べる「上野焼陶芸館」や福智産の農産物や特産品が並ぶ「上野の里ふれあい市」が隣接しています。敷地内には福智町出身の童謡作曲家・河村光陽を顕彰した「協奏の庭」もあり、福智の魅力を満喫できるスポットとなっています。



- 住 所 福智町上野2811
- 休 館 日 毎週火曜日
- 開 館 時 間 10時から17時
- お 問 合 せ 上野焼協同組合 TEL0947-28-5864
- ア ケ ス 平成筑豊鉄道赤池駅からバスで上野焼バス停へ
マイカーでは県道22号線から宮馬場の交差点を北東へ



パワースポットをめぐる

Power Spot

山岳信仰の修験の地、福智山。
悠久のときを生きる古木や滝、人々の祈りと信仰が息づく神社仏閣など
神秘的な「氣」に満ちた場所がここにはある。



1. 福智山腹にひっそりそびえる孤高の一本桜「虎尾桜」。
2. 龍伝説が今なお残る清流「白糸の滝」。落差25m。北九州国定公園内にある落差およそ2mの滝。見飽きることがない神秘の白糸。
3. 岩屋権現の大杉は、在来品種とは形態が異なり、実生によってこの地に繁殖した国内では珍しいものと考えられている。樹高36.2m、胸高周囲4.7m、枝下高9.3mで、今なお成長を続ける。
4. 興國寺仏殿。禅寺の中でも位の高い寺に採用され、興國寺では本尊は本堂にまつられる。禅宗様式仏殿の貴重な建造物。
5. 福智修験発祥の地「福智神社中宮」。長い石段の参道を登ってゆくと緑豊かな福智山に抱かれた中宮が。白鳳元年(650年)に開山。福智山頂に「上宮」、麓に「中宮」がある。

四季の原風景を行く

幾年月が経とうとも、わすれられない風景がある

F U K U C H I L A N D S C A P E



6. 春の福智山と菜の花
7. 金田地区成竹架道の桜
8. 福智川の螢の乱舞
9. 定禪寺境内の迎接の藤
10. 福智町水と灯火のタベ
11. 金田・神崎山笠競演会
12. 雪化粧の福智山
13. 田園風景と平成筑豊鉄道
14. 福智山初日の出登山
15. 熊谷無造糞の紅葉
16. 弁城地区のコスモスの花
17. 稲荷神社奉納獅子舞の稚児舞

i あやれやがや・福智 【第四章】identity

「れあど」の町。そして、「れから」の町。

10年 福智町の

■ 2007—2016 のあゆみ

平成18年3月、赤池町・金田町・方城町がひとつになつて生まれた「福智町」。その歴史は、繁栄と衰退を繰り返しながら「生き抜く知恵」と「粘り強い意志」を培ってきました。郷土を愛する力で、厳しい財政再建のいばらの道をより早く脱却し、新しいステージを切り開いています。たび重なる逆風をたくましく乗り越えてきた福智町は、常に新たな施策を模索し、際立ったアイデアと情熱、住民協働のまちづくりで次代に誇れる町に向けて前進しています。



2006

〈平成18年〉

■ 福智町誕生
赤池町、金田町、方城町が合併

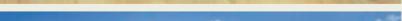


2007

〈平成19年〉

■ 市場小学校新校舎完成
■ 皆川ヨ子さん
世界最長寿ギネス認定

2005年に112歳で長寿日本一となった皆川ヨ子さんが、2年後に114歳で認定された。その穏やかで明るい笑顔は福智町の象徴として、みんなから愛され心に焼きついている。



2010

〈平成22年〉

■ 新学校給食センター稼働



2011

〈平成23年〉

■ 「協奏の庭」除幕式
河村光陽作曲の代表作「かもめの水平さん」記念碑と「うれしいひなまつり」をモチーフとしたモニュメントを主に構成。「日本の伝統美」と「美しい日本旋律」の「協奏」をテーマに創作された。



■ 美のカリスマ「IKKO」氏が福智町観光大使に就任
美のカリスマとして絶大な人気を誇るIKKOさんは旧方城町の出身。平成23年に福智町観光大使に就任し、生まれ育った町のPRの一役を担っている。



2013

〈平成25年〉

■ 神崎保育所新園舎完成



2014

〈平成26年〉

■ 赤池中学校新校舎完成
■ 図書館歴史資料館プレゼンテーション開催
■ 町出身「福島孝輔」君大阪桐蔭が甲子園で優勝
平成26年夏の甲子園、名門大阪桐蔭の背番号「1」を背負い、見事優勝を果たした福島孝輔君。

昭和14年 町制施行により赤池町が誕生

県道田川～直方線舗装完成

上野峠が県立筑豊公園に指定

昭和31年 町制施行により方城町が誕生

昭和33年 70年来の大干ばつで上野地区大被害

昭和34年 弁城炭鉱閉山

昭和35年 炭鉱離職者緊急就労対策事業開始

伊方炭鉱閉山

昭和36年 金田駅舎竣工

昭和41年 赤池鉱業所病院を赤池町立病院に移管

昭和45年 赤池鉱業(株)閉山

下田川衛生センター(し尿処理場)を方城町弁城に開設

誘致企業 九州日立マクセル(株)操業開始

昭和46年 上野峠を北九州国定公園に指定

昭和53年 上野橋開通

昭和54年 田川～直方線バイパス全面開通

昭和56年 金田大橋完成

方城町、財政再建準備用団体に指定

昭和57年 赤池ニュータウン分譲開始

昭和58年 上野焼、国の伝統的工芸品に指定

河村光陽生誕地の碑除幕式

昭和60年 平成筑豊鉄道、金田町に本社設置、営業開始

平成元年 赤池町、財政再建準備用団体に指定

平成4年 下田川し尿処理施設完成

金田町テニス場完成・国際車いすテニス大会開催

ふれあい塾完成

平成8年 方城町温泉井戸掘削工事完了

平成9年 韓国泗川市で上野焼四百年記念碑除幕

平成14年 上野焼四百年祭開催

上野の里ふれあい交流会館完成

平成15年 ふるさと交流会館日王の湯完成

下田川三町任意合併協議会発足

赤池町が全国広報コンクールで、総務大臣賞受賞

方城町地域交流センター完成

赤池町・金田町・方城町合併協議会設置

ほうじょう温泉ふじ湯の里完成

平成17年 赤池町が全国広報コンクールで、内閣総理大臣賞受賞

総合保健施設「コスモス」完成

かなだスポーツセンター(屋内競技場、弓道場)完成

平成18年 福智町誕生



2015

〈平成27年〉

■ 7月24日を「福智町 防災の日」に制定

■ 「1/1ラジコンカー全国大会」

「のりものフェスタinふくち」を開催

のりものへの熱意が実を結び、九州初の開催が実現した同

大会は全国各地の熱いファンの注目を集めた。JAL・トヨタ自動車九州などが参画する「のりものフェスタinふくち」も実現。



■ 第一保育所新園舎完成

福智町 年表

明治22年	伊方村と弁城村が合併し「方城村」、金田村と神崎村が合併し「神田村」、赤池村、市場村、上野村が合併し「上野村」がそれぞれ誕生
明治32年	金田～伊田間に鉄道開設
大正元年	金田炭鉱の東棧橋が完成
大正3年	三菱方城炭鉱ガス・灰じん爆発、687名死亡(日本最大の炭鉱事故)方城大非常発生
大正5年	町制施行により金田町誕生
大正9年	常設映画館「大和館」が興業開始
昭和14年	町制施行により赤池町が誕生
昭和25年	県道田川～直方線舗装完成
昭和31年	町制施行により方城町誕生
昭和33年	70年来の大干ばつで上野地区大被害
昭和34年	弁城炭鉱閉山
昭和35年	炭鉱離職者緊急就労対策事業開始
昭和36年	伊方炭鉱閉山
昭和41年	金田駅舎竣工
昭和45年	赤池鉱業所病院を赤池町立病院に移管
昭和46年	赤池鉱業(株)閉山
昭和53年	上野橋開通
昭和54年	田川～直方線バイパス全面開通
昭和56年	金田大橋完成
昭和57年	方城町、財政再建準備用団体に指定
昭和58年	赤池ニュータウン分譲開始
昭和60年	平成筑豊鉄道、金田町に本社設置、営業開始
平成元年	赤池町、財政再建準備用団体に指定
平成4年	下田川し尿処理施設完成
平成8年	金田町テニス場完成・国際車いすテニス大会開催
平成9年	ふれあい塾完成
平成14年	方城町温泉井戸掘削工事完了
平成15年	韓国泗川市で上野焼四百年記念碑除幕
平成16年	上野焼四百年祭開催
平成17年	上野の里ふれあい交流会館完成
平成18年	ふるさと交流会館日王の湯完成
	下田川三町任意合併協議会発足
	赤池町が全国広報コンクールで、総務大臣賞受賞
	方城町地域交流センター完成
	赤池町・金田町・方城町合併協議会設置
	ほうじょう温泉ふじ湯の里完成
	平成17年 赤池町が全国広報コンクールで、内閣総理大臣賞受賞
	総合保健施設「コスモス」完成
	かなだスポーツセンター(屋内競技場、弓道場)完成
	平成18年 福智町誕生

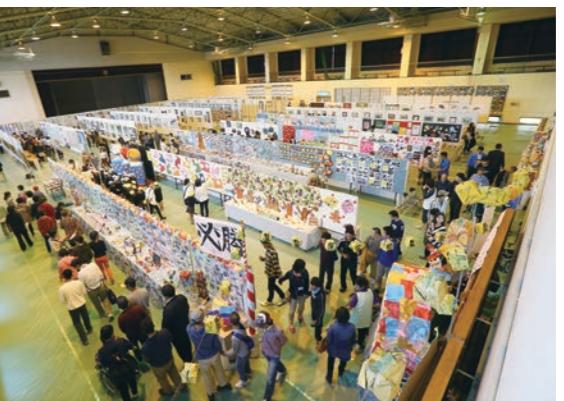
感性を育む

福智町文化祭



アート・音楽・芸能。数々の表現が競演し、まちを大きな感動で包み込む「大イベント『福智町文化祭』」。保育園児から高齢者まで、幅広い世代・ジャンルの方たちの作品と演奏が一気に公開されます。

発見があり、感動があり、時には壁にぶつかり、新しい自分に出会うことができる。雄大な福智に包まれ、自分らしく生きる。そんな感性を磨く場が、この町にはあります。生涯のライステージで、生き方や人生が変わるチャンスが身近にある。人を育む風土の中で、より人生を豊かにするかけがえのない時間が流れています。



「自然体験学習」少年のバス

屋外での直接体験活動を通して生きる力を培うことを目的とした「少年のバス」。町内の小中学生を対象に夏と冬の年2回(2泊3日)で行われます。夏は川でカヌーや沢登り体験。冬には慣れないスキーリ挑戦するなど普段ふるさとでは味わえない、さまざまなことに挑戦します。また、福智町内の他校生や異年齢の仲間との集団生活。外で遊ぶ機会が減りつつある昨今、たくましい心と体を養うことができる体験学習です。



「日韓交流事業」韓国泗川市との交流

上野焼の開祖である尊楷ゆかりの地、韓国泗川市との国際交流は、上野焼400年祭を期に始まりました。期間中は「友好記念碑」や「九龍窯」、韓国三大祭りの「南江流燈祝祭」「泗川航空宇宙博物館」や「固城恐竜博物館」などを見学。伝統芸能や伝統遊技など、韓国の子どもたちと異文化に触れあいます。事前に4回の研修でハングルを学習した福智の子どもたちは、覚えたての単語とジェスチャーを交えてコミュニケーションを図ります。そうして心通わせた数日間、最終日には涙して抱き合い、別れを惜しむ姿も見られ、海を越えた友情と広い視野を培っています。



「国内交流事業」沖縄県中城村との交流

旧方城町時代から続く交流事業。お互いの町名に「城」がつくことから始まったこの交流は、主に沖縄での悲惨な戦争を学ぶための平和学習として、夏休み期間中に行われます。訪問中は受け入れ家庭のお手へホームステイし、中城村の子どもたちと寝食をともにします。沖縄の文化と歴史を学ぶことはもちろん、親元を離れ同世代の友達に接する大変貴重な経験となっています。冬には中城村の子どもたちを受け入れて、積雪体験などの活動で絆を深めます。20年という長きに渡り培ってきた交流が実を結び、平成28年3月には兄弟都市提携を結ぶまでに親交が深まっています。



高齢者大学校

ふれあいを楽しみながら人生の成熟と教養を高めることができる「高齢者大学」。町内の50歳以上を対象とした幅広い分野にわたる半年間の講座です。交流しながら学ぶ喜びを感じ、知識を深め、人生の成熟度を増す「卒業のない大学」として親しまれています。心の豊かさや生きがいを得たり、社会の動きに合わせて必要な情報を取り込める貴重な場。毎回何かの発見があり、新しい自分に出会うことができる空間で、様々な知識を得て自分を磨く。喜びと生きがいを感じられる貴重な時間が流れています。



施設智町の

福智町では、子どもたちの笑顔があふれ、高齢者が生き生きと過ごせる施設、様々なミニユースティック活動を楽しめる施設、スポーツ振興の充実を目指した各施設と機能が整備されています。



利用団体が、それぞれのプログラムで体験学習できる「ふれあい塾」

新しい図書館・歴史資料館が生まれます

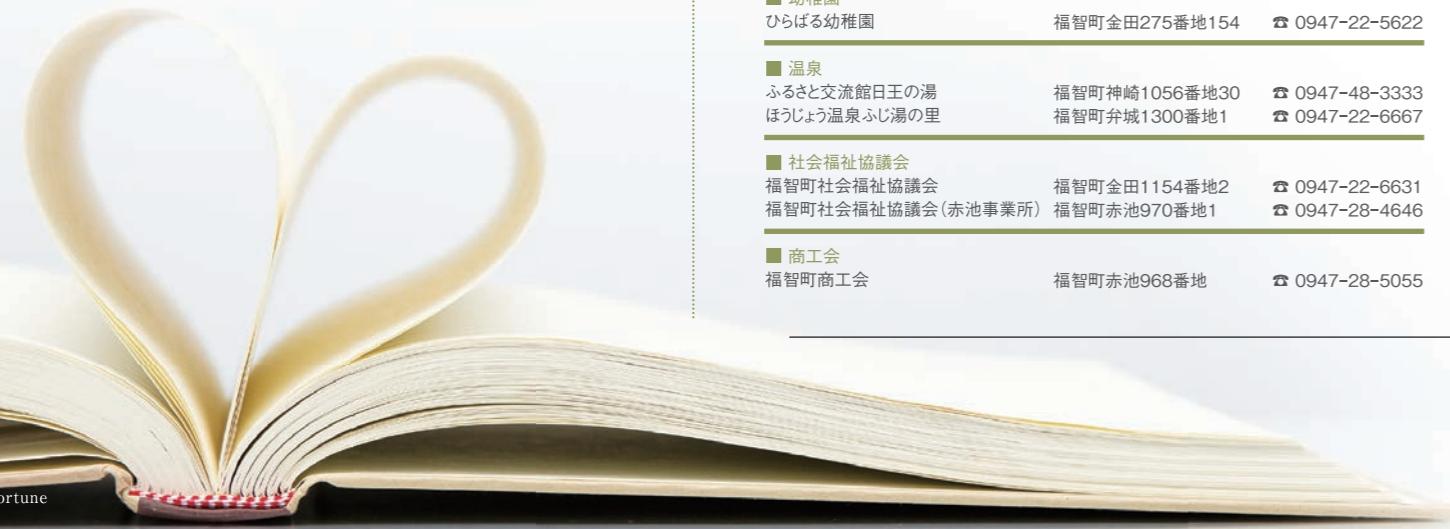
本から人、人から人へ。知恵がゆきかい、ふれあいが生まれる憩いの場



プロフィール(とりごえみな)
北九州市出身。北九州市の複数の図書館勤務後、図書館流通センターに入社。八幡西図書館や中間市民図書館長を歴任し、平成27年5月1日、福智町図書館館長に就任。



福智町立図書館・歴史資料館 館長 鳥越 美奈さん



平成28年の図書館・歴史資料館の開館に向けて、設計チームとまちの人々が力を合わせて設計を進めています。
館内は光の降り注ぐ広場を中心にカフェやショッピングが並び、大型スクリーンのあるイベント空間はあるで劇場のよう。窓辺の空間は寝そべって本を読んだり、緑を眺めながら勉強したりと思い思いに過ごせるスペースとして利用できます。1階にはものづくりの工房があり、庭の畑は食育の場にも。また、外壁の一部には土壁を作るなど、さまざまな表情の壁を演出。畠の土、炭鉱の土、上野焼の土…、郷土の土は、まちの歴史や文化を教えてくれます。
目指すのは、学びの場であり、憩いの場、そして地域の子育て拠点であり、食やものづくりなどまちの魅力が詰まった場所となること。地域コミュニティの新しい拠点として、町民から末長く愛される建物になること。たくさんの人たちの、そんな願いが込められた新しい図書館・歴史資料館の誕生は、もうすぐです。

■ 紹介施設	
屋内競技場(ドーム)	
弓道場	☎ 0947-22-2200
コスモス診療所	福智町赤池970番地1 ☎ 0947-28-2083
方城診療所	福智町弁城2239番地10 ☎ 0947-22-0242
B&G海洋センター	福智町神崎1089番地80 ☎ 0947-22-5868
ふれあい塾	福智町伊方4480番地1 ☎ 0947-22-5400
地域交流センター	福智町伊方4480番地1 ☎ 0947-22-4300
人権のまちづくり館	福智町赤池970番地4 ☎ 0947-28-3379
地域子育て支援センター	福智町弁城2239番地10 ☎ 0947-22-2401
方城児童センター	福智町伊方4488番地1 ☎ 0947-22-7403
ほのぼの館	福智町伊方4478番地1 ☎ 0947-22-6290
武道館	福智町金田1313番地1 ☎ 0947-22-2200

■ 庁舎	
福智町役場	福智町金田937番地2 ☎ 0947-22-0555
赤池支所	福智町赤池970番地2 ☎ 0947-28-2004
方城支所	福智町弁城2237番地1 ☎ 0947-22-0520

■ 保健センター	
コスモス保健センター	福智町赤池970番地1 ☎ 0947-28-9500
金田保健センター	福智町金田1271番地
方城保健センター	福智町弁城2239番地10

■ 診療所	
コスモス診療所	福智町赤池970番地1 ☎ 0947-28-2083
方城診療所	福智町弁城2239番地10 ☎ 0947-22-0242

■ 公民館	
中央公民館(旧赤池町民会館)	福智町赤池970番地3 ☎ 0947-28-4100
金田分館(旧金田町総合会館)	福智町金田1153番地1 ☎ 0947-22-2200
方城分館(旧方城町中央公民館)	福智町伊方4448番地1 ☎ 0947-22-4300

■ 小学校	
上野小学校	福智町上野2622番地 ☎ 0947-28-2133
市場小学校	福智町市場334番地 ☎ 0947-28-2009
金田小学校	福智町金田962番地 ☎ 0947-22-0061
伊方小学校	福智町伊方3922番地 ☎ 0947-22-0127
弁城小学校	福智町弁城1936番地 ☎ 0947-22-0129

■ 中学校	
赤池中学校	福智町市場336番地 ☎ 0947-28-2117
金田中学校	福智町神崎918番地 ☎ 0947-22-0136
方城中学校	福智町伊方3862番地 ☎ 0947-22-0237

■ 給食センター	
福智町学校給食センター	福智町弁城4187番地 ☎ 0947-22-0463

■ 保育所・園	
赤池保育所	福智町赤池859番地 ☎ 0947-28-2257
上野保育所	福智町上野2197番地 ☎ 0947-28-2244
市場保育所	福智町市場692番地 ☎ 0947-28-2635
中尾保育所	福智町赤池418番地47 ☎ 0947-28-3073
神崎保育所	福智町神崎1444番地 ☎ 0947-22-3399
金田保育園	福智町金田958番地6 ☎ 0947-22-0435
そよ風保育園	福智町金田273番地1 ☎ 0947-22-3653
宝見保育園	福智町金田1336番地2 ☎ 0947-22-4435
第一保育所	福智町弁城1840番地4 ☎ 0947-22-4476
中央保育所	福智町伊方4491番地2 ☎ 0947-22-0450
ぎんなん保育園	福智町伊方3958番地1 ☎ 0947-22-0253
すずらん保育所	福智町伊方4448番地 ☎ 0947-22-5177

■ 幼稚園	
ひらばる幼稚園	福智町金田275番地154 ☎ 0947-22-5622

■ 温泉	
ふるさと交流館日王の湯	福智町神崎1056番地30 ☎ 0947-48-3333
ほうじょう温泉ふじ湯の里	福智町弁城1300番地1 ☎ 0947-22-6667

■ 社会福祉協議会	
福智町社会福祉協議会	福智町金田1154番地2 ☎ 0947-22-6631
福智町社会福祉協議会(赤池事業所)	福智町赤池970番地1 ☎ 0947-28-4646

■ 商工会	
福智町商工会	福智町赤池968番地 ☎ 0947-28-5055



■ 屋内競技場(ドーム)



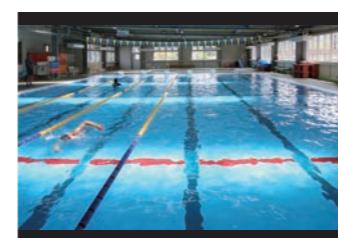
■ 総合保健施設コスマス



■ 方城診療所



■ 弓道場



■ B&G 温水プール



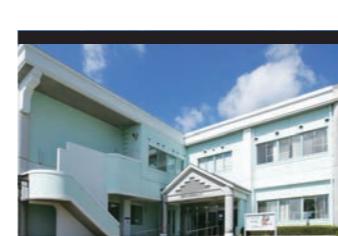
■ ふれあい塾



■ 地域交流センター



■ 人権のまちづくり館



■ 地域子育支援センター



■ 方城児童センター



■ ほのぼの館



■ 武道館

就学前の子どもを持つ保護者に対し、育児相談や関連機関の紹介、子育てサークルの支援など、子育てにかかる総合的なサービスを行っています。親同士が気軽に集まるサロンなどがあり、安心して子育てのできる環境が整っています。

児童センターは18歳未満の子どもたちを対象にした遊び場です。センターの利用は無料で、幅広く子どもたちを受け入れています。エアロダンス、和太鼓、茶道など、小学生を中心としたクラブ活動や親子で参加できる催しなどを行っています。

福祉の向上や人権啓発を目的とした施設。住民交流の拠点となる地域に密着した福祉センター(コミュニケーションセンター)として、生活上の各種相談事業や社会福祉、人権・同和問題に関する、さまざまな学習会、教室などが開かれています。

日本伝統の武道を普及奨励し、青少年の健全教育と心身鍛錬の道場としての役割を担う施設。剣道や空手など武道の修練、大会の場としてはもちろん、時には武道以外の屋内競技場、多目的ホールとしても活用されています。

Fortune Calendar

- 4月下旬 上野焼春の陶器まつり
- 4月下旬～5月上旬 藤まつり
- 5月上旬 赤坂神社神幸祭・白髪神社神幸祭
- 5月上旬 伊方地区山笠競演会
- 5月上旬 南木曾原神社神幸祭
- 5月上旬～中旬 岩屋神社祇園祭
- 5月下旬 国際車イステニス大会・交歓会
- 8月上旬 I LOVE フクチフェスタ
- 8月第4日曜日 水と灯火の夕べ
- 10月中旬 金田・神崎神幸祭、山笠競演会
- 10月中旬 コスマスフェスタ
- 10月中旬 ソバの花フェスタ
- 10月下旬 上野焼秋の窯開き
- 10月(不定期) フクチファインドフェスティバル
ヘイチクフェスタ
- 11月上旬 福智町文化祭
- 11月下旬 フクチ・夢・バルーンフェスタ
- 毎年開催(不定期) 福智町音楽祭



優れた泉質の福智町自慢の温泉を心ゆくまで、お楽しみください

ほうじょう温泉 ふじ湯の里

筑豊屈指の人気を誇る「ふじ湯の里」の自慢は美肌の泉質。緑色を帯びた湯は、肌をまとうヌメリ感があり、かすかな気泡が身を包みます。源泉掛け流しでお肌はしっとり。湯冷めも少なく、しばらくボカボカです。温泉は、源泉風呂、立湯、座湯、寝湯、歩行浴、白湯、家族風呂、足湯など内容も充実。特に露天風呂からは福智山や直方方面が一望でき、夜は満天の星空が広がります。福智山の麓で1日ゆっくり楽しめる施設です。

料金／一般(中学生以上)600円、小学生350円、幼児(3歳以上)250円
家族風呂(入館料別・1時間)1600円

※電車利用の場合は、平成筑豊電鉄金田駅より無料送迎バス有り。(約5分)
※無料駐車場完備

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.fujiyunosato.com/>

ほうじょう温泉「ふじ湯の里」

福岡県田川郡福智町城上の原1300-1 TEL 0947-22-6667
時間／10:00～22:00 休館日／第3曜(祝日の場合翌日)

ひのう ふるさと交流館 日王の湯

ゆとりある空間づくりをテーマにした地元ファンの多い「日王の湯」。館内は、子どもからお年寄り、体の不自由な方など、全ての人にやさしいユニバーサルデザインです。休憩室から浴場個別の洗い場に至るまでゆったりとしたスペースの設計。宿泊棟やカラオケルーム、トレーニングルームや会議室など、各種機能があるのもうれしいポイント。誰もがくつげるゆとりある空間の湯どころとして、根強い人気を誇っています。

料金／一般(中学生以上)600円、小学生350円、幼児(3歳以上)250円
家族風呂(入館料別・1時間)1600円、身障者用(入館料別・1時間)1100円

※電車利用の場合は、平成筑豊電鉄金田駅より無料送迎バス有り。(約5分)
※無料駐車場完備

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://hinounouy.com/>

ふるさと交流館「日王の湯」

福岡県田川郡福智町神崎1056-30 TEL 0947-48-3333
時間／10:00～22:00 休館日／年2回

FUKUCHI MAP



■パワースポットをめぐる

- 1 虎尾桜
- 2 白糸の滝
- 3 岩屋権現の大杉
- 4 興國寺
- 5 福智中宮神社

■四季の原風景

- 6 春の福智山と菜の花
- 7 金田地区えびの橋の桜
- 8 福智川の岸の乱舞
- 9 定禪寺境内の迎接の藤
- 10 水と灯火の夕べ
- 11 金田・神崎山笠競演会
- 12 嶣冬の福智山
- 13 田園風景と平成筑豊鉄道
- 14 福智山初日の出登山
- 15 熊谷無造窯の紅葉
- 16 弁城地区的コスマスの花
- 17 稲荷神社奉納獅子舞の稚児舞

■福智町公共施設

- A 屋内競技場(ドーム)
- B 弓道場
- C コスマス診療所
- D 方城診療所
- E B&G海洋センター
- F ふれあい塾
- G 地域交流センター
- H 人権のまちづくり館
- I 地域子育て支援センター
- J 方城児童センター
- K ほのぼの館
- L 武道館
- M 福智町役場
- N 福智町役場 赤池支所
- P 福智町役場 方城支所

高い志と、広い視野で

「夢が持てるまちづくりを」町制10周年、次の10年へ向けて

福智町長
嶋野勝

F U K U C H I O F F I C I A L



平成18年3月、赤池町・金田町・方城町がひとつになり、3町の共通のシンボルである「福智山」への愛着から、新しい町「福智町」が誕生しました。福智町は、福岡県の東北部に位置し、北は北九州市、直方市、東は香春町、南は田川市、糸田町、西は飯塚市に接しています。総面積は42.04平方キロメートルで、福岡県の0.8%を占めています。福岡・北九州市の両政令指定都市の中心からそれぞれ約45キロメートル、約35キロメートルの距離にあります。また、周辺を丘陵地、山地に囲まれた盆地で、中央部を彦山川、中元寺川が貫流しており、緑豊かな自然環境に恵まれています。

■ 福智町の人口（平成28年1月31日現在）

23,800人

男性 11,283人 女性 12,517人

A C C E S S

■ 飛行機をご利用の方

北九州空港→朽網駅→行橋駅→田川伊田駅→金田駅（所要時間 約2時間）

福岡空港→福岡空港駅→博多駅→直方駅→金田駅（所要時間 約2時間）

■ 列車をご利用の方

JR小倉駅→折尾駅→直方駅→金田駅（所要時間 約1時間10分）

JR博多駅→直方駅→金田駅（所要時間 約1時間40分）

■ 車をご利用の方

九州自動車道八幡IC→福智町（所要時間 約30分）

九州自動車道金剛IC→福智町（所要時間 約30分）



連携させ、充実したセカンドライフを謳歌できるまちづくりに取り組んでいきたいと思います。また子育て支援に関しては、医療費は中学3年生までの無料化を実現し、子育て支援も進めています。定住人口の増加は雇用と教育、福祉、介護の充実があつてこそ。これからも町民の福利・福祉や人づくりにより一層力を入れていきたいと考えています。

もう一つ大切な柱が、環境への取り組みです。豊かな自然を守るために福智町では特に太陽光発電に力を入れており、公共施設の屋根を利用し水上で太陽光発電ができる「フロートソーラー」を導入。九州では2番目、福岡県内では初の試みとして注目されています。加えてごみの減量化とリサイクルにも取り組み、

豊かな恵みを次代へと引き継いでいきたいと思います。福智町が誕生して10年。いよいよ、次の10年への挑戦が始まります。目指すは「夢が持てるまち」。そのためには町民のみなさんや民間企業の知恵や力も借りなければなりませんし、ときには厳しい選択を迫る場面もあるかもしれません。しかし町民一丸となつてそれを乗り越えることができたとき、福智町は全国に誇れる「活力あるまち」として飛躍することでしょう。志はあくまで高く、まちの未来まで見据える広い視野を持つて。福智町の無限の可能性を信じ、みなさんとともに楽しく夢を持ってまちづくりに取り組んでいきたいと切に願っております。



地方創生の一環として平成27年10月に開設した「福智町しごと相談窓口」。雇用創出への大きな足がかりに

福智町が誕生して10年が経ちました。私は平成26年より町長となり、この2年間、まち全体を隅々まで見てきましたが、改めてこのまちの持つ魅力、ボテンシャルの高さを実感しています。少子高齢化、人口減少、貧困・日本全体を覆う課題がここ福智町にも同様にあり、依然厳しい状況にはあります。だからこそ、「やること、やれることがたくさんある。私は福智町のまちづくりにそんな大きなロマンを抱いています。

町長就任以来、何事にも全力で取り組み、1年目に時

いた種が大きく育つてきていることを感じます。例えば

地方創生の一環として平成27年10月に開設した福智

町しごと相談窓口」。就職を希望する、本人から、家族

まで、12月までの3か月間で250もの相談があり、実

際に雇用につながった方からも喜びの声を多くいただい

ております。また、平

成28年度に開館予定

の図書館・歴史資料

館。まちづくりの拠

点として日本一の施

設を目指しています。



500倍の11億円を突破しました。

そのうえで、今後最優先で取り組むべきは財政の健全化です。特に公共施設は必要なもの、そうでないものを見極め、統廃合していくことが急務です。そうしてやるべきことにはしっかりとお金かける。メリハリの効いた町政を目指します。

私の役割は「10年先、20年先の福智町を見据えてしっかりとレールを敷くこと」。まちを覆う課題に対し、前向きにチャレンジを続ける「夢の持てるまち」を目指して、

3つの柱を軸に町政を進めていきます。

1つ目の柱は「教育」です。福智町の子どもたちには、

学力を競うだけではなく、どんな状況にあっても自立し

て強く生きられる力を身につけてほしい。そのためには

多くの体験と教育現場における優秀な人材の確保が必

要です。教育予算をしっかりと確保しながら、まちとして

子どもたちの未来をサポートしていきたいと思います。

次に少子高齢化への対策です。町では65歳以上が

31%を超えました。私もここで老いてゆく者の一人として、いくつになつても夢や生きがいが持てる福智町で

あって欲しいと願っています。認知症施策や自立支援

センターの設立など、福祉・医療・介護をしっかりと



九州では2番目、県内初の取り組みとなる太陽光発電システム「水上フロートソーラー」(弁城朝倉池)

Fortune

[アーチェンジング・マガジン]

2016
福智町 町勢要覧

編集・発行／福智町役場
〒822-1292 福岡県田川郡福智町金田937番地2
TEL:0947-22-0555(代)



町の花 エドヒガン
樹齢600年以上の「虎尾桜」に代表され、町内に50本ほど確認されている県内で希少種のエドヒガン。サクラを含め制定されています。



町の木 フジ
県指定天然記念物の「迎接(こうじょう)の藤」は、定禪寺が「藤寺」と呼ばれるほど、広く町内外で有名。炭鉱の時代からとてもなじみの深い名木です。



町の鳥 ウグイス
趣のある声で季節の到来を告げ、春告鳥(はるつぐどり)とも呼ばれます。年中同じ地域に生息。その留鳥(りゅうちょう)という親近感から町鳥に選ばれました。

